

外国語教育・姉妹校交流を通じて学ぶ、ICT を活用した思考力・判断力・表現力の育成

～Webを活用したマンツーマン英語教育・姉妹校交流 (マレーシア)・商品開発～

国際理解・言語学習・ビジネスマネジメント

名古屋市立 名古屋商業高等学校

〒464-0044
愛知県名古屋市千種区自由ヶ丘2丁目11番48号<http://www.nagoya-ch.ed.jp/>

1. 研究の背景

今日の日本では、労働や観光など様々な場面で訪日外国人の増加が見込まれている。そしてまた、今後さらに訪日外国人は増加することが予想される。本校では平成26年度より3年間SPH（スーパープロフェッショナルハイスクール 以下SPH事業と表記する）に認定され、事業を実施してきた。その事業における研究テーマを決定する際に、本校商業科流通ビジネスコースの2年生・3年生の学習目標として、上記の社会変化とそこから生まれる社会的ニーズを勘案し、商業における言語学習を行うことを決定した。様々なビジネスシーンにおいて、英語を中心とした外国語を用いたコミュニケーションの必要性が、今後さらに増加することを想定したテーマ設定を行った。この能力は、ビジネスの場において中核となる重要な要素の一つとして考えている。単なる日常会話の学習で終わるのではなく、異文化理解し、ビジネスシーンに応じた英語表現を身につけることが最終目標である。事業認定当初の授業では、ネイティブ講師を招聘し、授業を行っていた。しかし、1クラス生徒40名の授業において、講師に対して生徒数があきらかに多く、学習効果はあまりなかった。また、この課題を克服するためには多くの予算を必要とし、継続性においても問題があった。そして、授業における生徒個々の評価においても評価の客観性やその実現可能性（教員への負担）に課題があった。生徒の授業の受講環境は悪く、英語が苦手な生徒においては50分の授業において全くネイティブ講師と会話することなく終えようとすることも珍しくはなかった。そこで、予算的に継続することが現実的であり、また、生徒一人一人においてコミュニケーション能力を向上させながら、十分に会話練習をする方法を探してきた。その方法の模索、実施と問題点の整理、検証を繰り返してきた結果、一つの形を見出すことができた。さらに、評価規準や事前事後の学習をどのように実施するかなど、より効果が発揮される方法についても方向性を見出すことができた。従来進めてきた内容にさらなる学習活動を加え、その継続と発展を目指し、平成30年度（第44回）実践研究助成「一般」に応募した。

2. 研究の目的

（1）施設設備について

本研究では、本市及び本校のネットワークシステムにおいて、クラス単位でオンライン英会話を実施することを想定した環境整備に関する研究を実施する。SPH事業においては、ネットワーク帯域の関係で、音声のみで実施してきた。しかし、動画を使用しない方法であっても、クラス全員が実施できない、もし

くは1度の授業において毎時間数名が受講できない等の問題が発生した。これらをどのように解消し、安定的に授業を実施するかの研究を行い、何が必要かを明確にすることが本研究の目的の一つである。

(2) 授業のより効果的な実施方法について

S P H事業実施時は、より安定的な実施と授業形態の発見に重点が置かれていた。そのため、オンラインでの言語学習は楽しいが、楽しいだけで授業が終了してしまい、効果が限定的であった。今年度は(1)を確保しつつ、新たな研究目標も設定する。それは、学ぶ楽しさを残しつつ、生徒自身が事前に学習した結果をオンライン英会話で挑戦する形を創り出すことである。これを実現するために、事前学習の方法と量と実施時期を調整し、下記の流れを生み出す方法を考えた。

①オンライン英会話で実践 → ②授業内外での振り返り → ③学習 → ④再挑戦 → ①へ

(3) 授業および提出物における評価規準について

努力した生徒とそうでない生徒の評価を適正化し、どのような方法と規準で行うことがより望ましいか研究を行う。また、客観性を保つため、学期ごとにレベルチェックを実施する。このレベルチェックの実施方法・実施に関する課題の研究を行う。そして、レベルチェックの結果を成績に参入することが適切であるかどうかを検証する。授業時間外の評価規準も確立し、提出物における評価規準の研究も実施する。

(4) 姉妹校との活動について

日本国内において、姉妹校とどのような学習活動を行うことができるかの検証を行う。Skypeによる交流による学習活動・施設見学による学習活動・共同作業による学習活動・販売実習による学習活動、ホームステイを通じた学習活動を対象に行う。これらの学習活動は、本校の生徒だけでなく、姉妹校生徒においても効果的な方法であるか、姉妹校の教員の意見も参考に検証する。これは、両校が長く継続的に協力しながら効果的な学習方法を発見するための重要な事項であると考えている。

マレーシア国内においては、どのような学習が可能であるか姉妹校の先生よりヒアリングを行います。両校の学習システムの違いを踏まえたうえで情報交換を行い、今後の方向性を模索します。来年度は、これを実際に実施し、検証したいと考えています。

(5) 姉妹校交流とICTを活用した本校生徒の学習活動について

姉妹校生徒がどのようなことを日本で学びたいか聞き取りを Skype やメールで行い、それをもとに来日時の活動内容を決定する。その活動について良い点と悪い点の確認を行う。洗い出した項目から、計画の立案・準備・実施・課題発見・解決方法に関する活動までの一連の流れを研究する。この一連の活動から本校生徒が身につけることができる能力や学習要素を発見します。発見した学習要素は、どのようなビジネス場面において、活かせるか研究を行います。

3. 研究の経過

活動記録の欄については、どの取り組み内容についての資料であるか示すため下記の省略記号で表します。

商品開発…(商) 外国語学習…(外) 姉妹校交流…(姉)

時 期	取 組 内 容			活 動 記 録
	商 品 開 発	外 国 語 学 習	姉 妹 校 交 流	
4 月	① 名古屋三越・名古屋フランスより計画概要・注意事項の説明	① 学校外の通信ネットワーク速度確認(実習室使用時間において実測)と問題点の把握、改善作業	① 交流日時決定をメールで行う ② Skype の設定	(商)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】研究ノート (外)【教員】動画記録、各録文書 (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】研究ノート
5 月	① アイデアシートで、ターゲット、価格、商品名、商品詳細など、商品に関するアイデアを考察	① 学校内の通信ネットワーク速度確認(実習室使用時間において実測)と問題点の把握、改善作業	① Skype で姉妹校と交流(テーマ:自己紹介) ② 姉妹校来日時の注意事項について講義を受ける	(商)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】アイデアシート、研究ノート (外)【教員】動画記録、各録文書 (姉)【教員】動画記録、各録文書

				【生徒】マレーシア語研究ノート、パワートポイントへ記録
6月	① 生徒より提出されたアイデアシートを名古屋三越、名古屋フランスの両担当者で数案に絞り込む	① 受講日・教材の設定 ② 生徒の英語力のレベルチェック	① Skypeで姉妹校と交流（テーマ：食文化について） ② 姉妹校来日計画を立案（第1案）	(商)【生徒】アイデアシートへ協力2社による指摘を記載 (外)【教員】動画記録、受講日・教材予定表、レベルチェック成績結果 【生徒】受講日・教材予定表、レベルチェック成績結果 (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】マレーシア語研究ノート、来日スケジュール表（第1案）
7月	① 名古屋三越入店研修の日程決定 ② 6月①に指摘された内容を改善するため、再度アイデアシート提出	① 第1回・第2回オンラインレッスン（音声のみ）	① Skypeで姉妹校と交流（テーマ：民族構成と宗教について） ② 姉妹校来日計画を立案（第2案）	(商)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】アイデアシート、研究ノート (外)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】オンライン英会話ノート (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】マレーシア語研究ノート、来日スケジュール表（第2案）
8月	① 名古屋三越入店研修の実施 ② 試作品の試食 ③ 商品名の決定 ④ 商品名の決定 ⑤ 販売日の決定 ⑥ 名古屋三越地下1階で販売実習の実施 ⑦ 商業研究発表大会で学習内容を発表	夏休みのため実施なし	① Skypeで姉妹校と交流（テーマ：それぞれの国の名所について） ② 姉妹校来日計画を立案（第3案）	(商)【教員】動画記録、各録文書、 【生徒】入店研修資料、研究ノート、振り返り記録、プレゼンテーション用台本、プレゼンテーションスライド、商業研究発表大会要項 (外) なし (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】マレーシア語研究ノート、来日スケジュール表（第3案）
9月	① 11月①で販売する和菓子のアイデアシートを不老園（和菓子屋）へ提出 ② 上記①の試作品作成 ③ 9月①の商品完成	① 第3回オンラインレッスン（音声・画像） ② マレーシア語学習	① Skypeで姉妹校と交流（テーマ：接客について） ② 姉妹校来日計画を立案（完成） ③ 姉妹校来日スケジュール表に戻って準備	(商)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】入店研修資料、研究ノート、振り返り記録 (外)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】オンライン英会話ノート (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】マレーシア語研究ノート、来日スケジュール表（完成）
10月	① 中部国際空港「和の間」で打ち合わせ ② 名古屋フランス（洋菓子屋）および不老園（和菓子屋）へ商品の発注	① 第4回オンラインレッスン（音声・画像） ② マレーシア語学習	① Skypeで姉妹校と交流（テーマ：姉妹校の生徒と日本訪問時について最終打ち合わせ） ② 姉妹校来日スケジュール表に戻って準備	(商)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】入店研修資料、研究ノート、振り返り記録 (外)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】オンライン英会話ノート (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】研究ノート
11月	① 中部国際空港「和の間」で販売実習	① 第5回・第6回オンラインレッスン（音声・画像） ② マレーシア語学習	① 教育長訪問 ② 姉妹校生徒と各施設訪問し、文化学習 ③ 姉妹校生徒と共に中部国際空港で販売実習	(商)【教員】動画記録 【生徒】研究ノート、振り返り記録 (外)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】オンライン英会話ノート (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】研究ノート
12月	① 振り返りのための報告書を作成	① 第7回・第8回オンラインレッスン（音声・画像） ② 生徒の英語力のレベルチェック	① 姉妹校交流の振り返りのため報告書を作成 ② 画像・動画を姉妹校へEMS（国際郵便）で送付	(商)【教員】動画記録 【生徒】研究ノート、課題研究報告書 (外)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】オンライン英会話ノート (姉)【教員】動画記録、各録文書 【生徒】研究ノート

4. 代表的な実践

(1) 本研究の視点

本研究では、特に下記の4つの視点をとくに重視し、学習の実施と検証を行った。

- ① 全体の活動を教員の指導のもと生徒自身が計画・立案して実施する。実施上の問題点をその場で解決しながら物事を進め、次回の計画立案に生かすようにする。
- ② 本校がこれまで実施してきた商品開発・販売実習の学習において、姉妹校がどのように連携し、共同で学習できるか様々な取り組みを試みる。また、今後どのように発展させていくことができるか模索する。
- ③ 外国語学習においては本校生徒の現状をより客観的な方法で把握する。それ以外の活動においても現状把握を行い、それを踏まえて本校に適した評価基準を作成する。
- ④ 画像・動画など繰り返し検証が行えるツールを活用しながら生徒の変容を確認する。その変容から実習の効果を検証する。

(2) ①について

姉妹校交流において、生徒が計画立案した内容（一部抜粋）と販売実習で使用した生徒作成の和の間メニュー（一部抜粋）を下記に資料として記載します。

日付	時間	行程	概要	
11月8日(木)		お祈り (Fajr: 4:53)	※ホテル自室	
	9:30	「名古屋クラウンホテル」発 ↓ (徒歩) 名古屋科学館 着 名古屋科学館 見学	※ 日の出 - 6:20 ※ 有志は学校集合 課研は伏見集合 ※ プラネタリウム団体真下集合 (館外)	
		お祈り (Dhuhr: 11:36)		※ 理工館7階 休憩スペース (集まった思いのないスペース)
		13:20		名古屋科学館 発 ↓ (徒歩) 伏見駅 発 ↓ (東山線 藤が丘行) 栄駅 着 栄駅 着

※要予約・お取り置きは本館内限定となります。

共同商品開発

名古屋から和食

名古屋商業高等学校



「きんぴら」は小倉

名古屋名物「小倉トースト」にトウモロコシを合わせた名古屋産の洋菓子です。

不器用

名古屋商業高等学校



名古屋名物「味噌湯」をテーマに、食卓の必需品に味噌と油揚げを合わせた和食洋菓子です。

本日のお食膳に上記の2点になります。

名古屋市教育委員会 教育長 訪問

本校（名古屋商業）における交流

商品開発・販売実習など学校外の活動

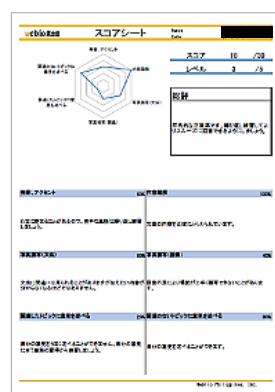
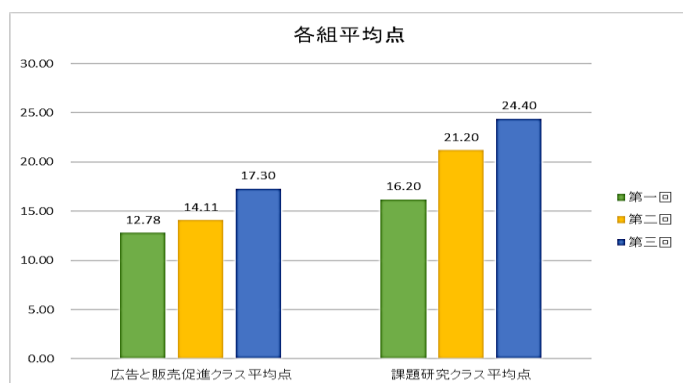
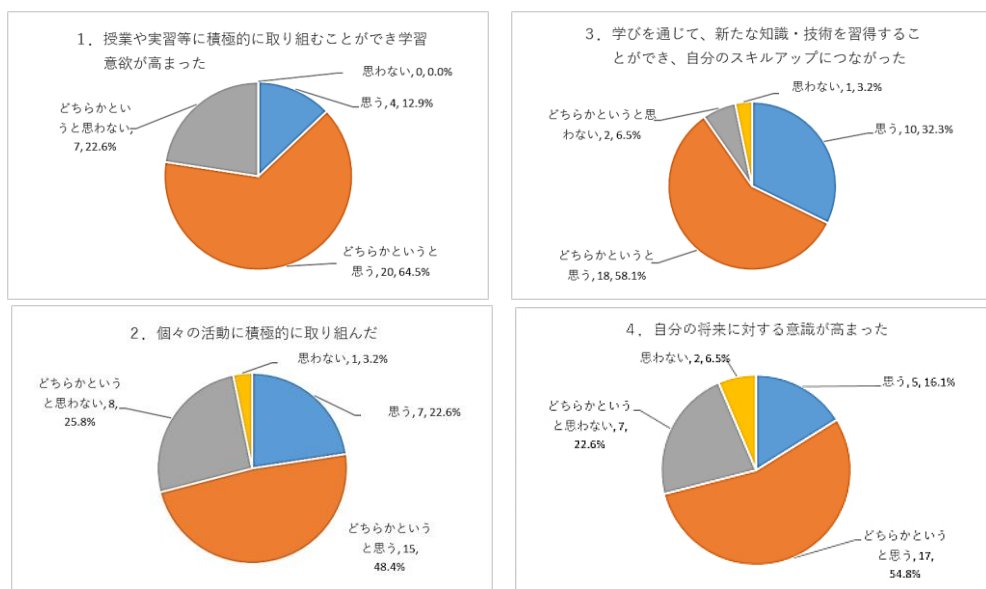


互いの郷土料理の作成

1. 「日曜日の表現」といついての理解					チェック欄	A	B	C	D	E	※ 表
						5	4	3	2	1	
理解	読	音	形	音	音	すべて読んでいる	Aから一つ欠けている状態	Aから二つ欠けている状態	Aから三つ欠けている状態	Aから四つ欠けている状態	
						☐ 流れあり ☐ 分かりやすい ☐ 字が表現されている ☐ 文化の違いが表現されている					

学年	氏名	名前	よみ (姓)	よみ (名)	weblioノート	プリントがすべてある	辞書が揃っている	英和辞書がある	辞書なし、辞書でも 一部の単語が読める	辞書の読解ができて いる	その他
					未						
					E	×	△	○	△	×	プリントが足りない、プリントが揃っており、かなや片假に貼ってある、記入されている字も少ないや書き、
					M	○	○	○	○	○	プリントも少ない、英和辞書が2冊ある、プリントが読めるが、一部の単語は読めない、プリントには読める、英和辞書も2冊、漢和

第 44 回 実践研究助成 高等学校



(5) ④について

a. 商品開発と販売実習

当初、人と話すことすら苦手だった生徒が、積極的に商品に関心を持ったお客様に声をかけ会話をする姿を実習の中から見ることができました。これは、立場・性別・年齢・国の違う人々と多くふれあい、その生徒が少しずつ接する努力を重ねてきた成果が現れたものだと考えている。また、普段、友人が多く、同級生と気軽に話しているいる生徒であっても、販売に至るまで多くの失敗し、様々なことを経験してる姿を見ることができた。そこから、相手に合わせたコミュニケーションの方法と能力を身につける重要さと難しさを学ばせることができた。実習後の振り返りの発表や報告書の記述の中でもその変容を見ることができた。

b. 外国語学習

当初は、ネイティブ講師と25分間の授業を完結することが難しい生徒が多くいた。しかし、回数を重ねるにつれ徐々に講師の発音にもなれ、指示を受けながら授業を進行することができるようになった。また、事前学習以外にも洋楽を聞いて学習を行うなど、各生徒が工夫して学習していることが分かった。そして、提出物においては、細かな評価規準を用いることにより、その評価からより具体的に個々の学習状態を読

み取ることができるようになった。各々に取り組む姿勢や学習の癖があり、積極性の有無だけでなく、他の生徒のノートを写しているか、オンライン英会話の授業における参加具合も一定程度が推察することができた。

c. 姉妹校交流

今年度の交際交流を通して、外国語を身につける必要性と重要性を感じている生徒がおり、その変容をみることができた。姉妹校生徒とのコミュニケーションから相手の文化や風習に理解を示し、互いに相手を尊重しながら過ごしていく大切さと難しさを、振り返りのプレゼンテーションで発表していた。

5. 研究の成果

これまでは、本校商業科流通ビジネスコースは本校のみで様々な取り組みを行ってきた。そこに新たに姉妹校が加わることにより、より実践的な学習が必要となった。例えば、語学の学習に関しては、勉強したつもりではなく実際に現場もしくはオンライン英会話で通じることが求められるからである。そして、学習した量や時間ではなく、簡単な英単語や文法であっても身に付けているかが重要であることを生徒に認識させることができた。今後はさらに進化し続けるICTの効果を最大限に生かし、本校の生徒と姉妹校の生徒が学べるように授業を工夫する予定である。

6. 今後の課題・展望

(1) 今後の課題

- ・マレーシアと日本における教育制度や時期の違いを克服する必要がある。
- ・交流するテーマを単なる文化学習で終始するのではなく、より持続発展可能な社会を実現するための教育活動が必要となる。

(2) 今後の展望

行政上の仕組みや法制度の基礎をしっかりと学習しながら、海を越えた活動や法的根拠に基づいた活動を実施したいと考えている。そして、その活動が本校の新学習指導要領に基づくカリキュラム編成の一つの方向性を指し示すことができるように実施する。単なる商品開発ではなく、次世代の商業教育の形になるように学習活動を実施したい。

7. おわりに

本校は、社会の変化と学校教育に対するニーズを素早く取り入れ、次の世代を見据えた学習を実施し、深い学びを今後も実施していきます。

8. 参考文献

- ・特にありません。